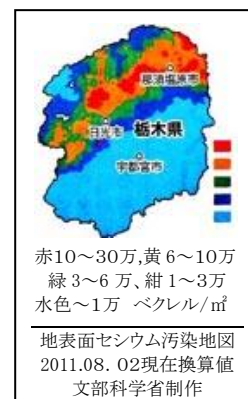


あの時から放射能汚染地帯日光になりました

いま、子どもたちが修学旅行で、自然と歴史遺産の宝庫日光市への訪問に疑問

日光-放射能から子どもを守る会//大島 武行

日光市木和田島 1526-152



### ◇悔しいです! 自然に見えない痛みです! 日光の自然と歴史遺産の宝庫の「ふるさと」は放射能汚染されました

日光市は、自然と歴史遺産の宝庫です。県内外から修学旅行・移動教室、遠足など多くの子どもたちが訪れています。もちろん国内外の観光客も多数訪れます。

私は、子どものころから裏山に登り、中学のころからは魅力をかきたてられて裏山から日光連山へ、自然の中には動植物、川、沢、滝と、自然の音と香りの自然豊かさにかこまれた生活で育ってきました。私の生まれ育った家は、社宅だったためすでに取り壊され、子ども時代の住み慣れた地は何もなくなり変わり果てていました。友達は散り散りバラバラになってしまいました。しかし、私にとって、唯一「ふるさと」と呼べるものは、日光連山、大自然です。

しかし、昨年3月11日の大震災、そして、3月15日は、福島原発の崩壊で放射能汚染物質が150キロほどある日光市内にも飛散して来ました。広島、長崎の原爆と同じ放射能汚染です。私は、すでに両親もなく、生まれ育った「ふるさと」は、日光の大自然だけです。しかし、汚染されてしまいました。東電、政府への怒りとともに、自然を守れなかった悔しさと、なにも知らぬままの大自然、そして自然に生息するさまざまな小さな命を危機な環境におとし入れた人間社会の一員として申し訳ないです。さらに、子どもたちまで苦しめようとする放射能汚染と、どう対峙していけばいいか暗中模索です。まずは、放射能被ばくの危険がいくばくかでも可能性があるなら、子どもたちの健康は、大人たちが必死で守るしか手がありません。どうすればいいのでしょうか……?!

### ◇日光市は観光業者を守る姿勢ですが、現実の日光市内の放射能汚染線量

さて、日光市は、いち早く昨年4月1日には、修学旅行者に向けて「安全宣言」です。さらに4月中に2度も「観光安全宣言」と、「風評被害」を声高々に宣伝です。日本でも一番早い決断です。そのために市独自に放射線量など計測したとは聞いていません。この市の姿勢はどのような根拠から発せられているのでしょうか。観光客誘致のため、観光業者を守るための姿勢です。

それでは、日光市内の放射線物汚染の実態を見てみましょう。日光市や修学旅行で訪れる視察者の測定値は、どういわけか随分低い数値になっているようです。しかし、私たち市民を含め、県外から子どもたちが日光市を訪れる計画のお母さんお父さん方の測定値は高めです。なぜでしょうか。

その前に、公式の日光市の汚染状況について紹介します。

〈参考//汚染されている放射性セシウムの物質的減少は、1年目で約15%、2年目で約11%、3年目で約8%の減少〉

#### ① 文部科学省(2012.08.02)//放射性物質セシウムの地表面汚染地図。

日光市は、最高10万~30万ベクレル/m<sup>2</sup>、3万~10万Bq/m<sup>2</sup>が広く分布。汚染前、4万Bq/m<sup>2</sup>以上は政府の規則で人が住めないレベルの値。(「日光-放射能から子どもを守る会」チラシで紹介)

#### ② 栃木県・県教育委員会(2011.05.13~19)//県内高等学校、小中学校、幼稚園、保育園などの校庭・園庭の中央

日光市立小学校26校//0.2μSv/h以下:3校、0.2~0.8μSv/h:23校

〈小学校は地域に根ざしており、市内全域の線量の傾向を知ることができる/地上50cm〉

#### ③ 日光市(2011.10.03~12)//市内1キロ単位538ヶ所測定(道路、一部歩道などアスファルト上/地上50cm)

〈0.2μSv/h以下:29%、0.2~0.8μSv/h:71%〉

以上の測定値を認めますか。それとも誤っていますか。どう考えますか。そして、世界共通で汚染された放射性セシウムは1年で約15%減少です。

私は、あえて以上の測定結果に疑問を持つのは、②校庭などの中央は、すでに飛散から2カ月過ぎていて、チリと同じく周囲の線量よりは低くなっている可能性が大きいこと。③は、道路、アスファルト上で、飛散から7か月もたっていることから、風、雨などによる移動や、クルマによる移動で周囲の線量よりだいぶ低下しているのが常識です。環境省のクルマでの道路の測定については、周囲の線量との差を測定して、補正をしています。

#### ◇日光市や県外からの視察者と、汚染・被ばくを心配する人の放射能線量の差はなぜ？

先日、私たちは、観光地を訪れて測定して、高めに線量が出ていることを話していると、観光施設に働いている人が覗きながら、「市が計測するときには低いんです」と、もらしました。そうです、日光市や行政など測定すると、なぜか放射線量は低くなるようです。他方、放射能は危険なので心配をしている人が測ると高く出る傾向があります。それぞれの意図によって念力での差なのでしょうか。そんなことはないでしょう。

意図的に測定器を低く出るよう補正なしが前提(そんなこともあると聞きますが?)です。まず、大きいのは測定するための目的が大きく影響しているようです。日光市は、第一に観光客誘致ですから、都合の悪い数値は「年間100ミリSv以下なら問題ない」とまで言います。そして、観光客誘致用の測定は、今年1月23日から毎週始めました。私は、測定の結果が低すぎるので、まず、測定方法に疑問を持ちました。やはりいい加減でした。日光市は、30秒ごとに線量が表示されるので、その数値を公表です。私は、測定機器の販売会社に問い合わせ、正しい測定方法でいるよう申し入れました。しかし、従わず、以後は、30秒ごと5回の測定(2分30秒)の平均としたそうです。販売会社は、30秒ごとの3回目(1分30秒後)の数値、その後、同じことを2度繰り返して、その平均値を出してくださいとのことでした(計4分30秒)。その測定器の測定方法をよく知る必要があります。また、どの測定機でも放射線量の数値が安定するまで待つことが基本ですが、あとはより正確な測定は時間を十分取れるかどうかの問題です。

次には、観光地の測定地の問題です。現在、日光市や多くの県外からの視察者の測定は、その測定地は、その地点1点で周囲の面としての測定値ではありません。さらに、測定地点の一瞬のせいぜい多くても4~5分間の測定値です。なぜならば、現在、観光地で測定している場所は、広い場所が多く、風、雨で放射性物質が流され、クルマや人がたくさん入り、タイヤや靴で持ち去っていますから、当然周囲の線量より格段に低くなっているのは当然です。しかし、周囲の線量は、それほど下がっていません。放射性物質セシウムの物理的減少に近いのではないのでしょうか。ですから、観光地で訪れる低くなったであろう地点は、風がふくと、急に線量が上がることになります。1日、いや何日間続けて測ってみてください。それは、日光市の小学校校庭で平日毎日1回計測している数値を見てもはっきりしています。(日光市のHP情報)校庭の中心の線量は、風や雨、子どもたちの靴で以前の半分くらいになっているようですが、その日によって2倍以上の線量の差が出ていることが珍しくありません。また、私は、日光市内の住宅地にチラシ配布をしながら線量計とにらめっこをしたことがありますが、住宅地も以前の線量からずいぶん低くなっています。毎日のクルマでの移動がすごいですから、しかし、歩いていて風が出てくると、急に線量が高くなることがあります。風向き、風の強さで違うようですが。

さらに、日光市や視察者などは、形式的に仕事で測定と言う姿勢が強いのでしょうか。いわゆるアリバイ的に測定するということなのでしょう。しかし、子どもたちを心配して測定する人たちは、ていねいに測定し、さらに測定地点をいくつも探ります。子どもたちは興味を持ってあちこち歩きますから…。当然、子どもたちの健康を考えれば、神経を使つての測定です。安心できるかがかかっていますから必死です。それも、遠くからカネを掛けてくるわけですから、税金で仕事としてするのは、まったく違います。

ちなみに、東照宮などの2社1寺(東照宮、二荒山、輪王寺)地区は、山内地区と言います。ここは、2011年10月日光市の測定は、0.31と0.35 $\mu$ Sv/hでした。今年の10月には、減少15%で0.27-0.30 $\mu$ Sv/hあることとなります。

他の観光地や、観光地までいく地域の線量(2011.10 日光市測定値)をご覧ください。例えば「いろは坂」は1年後0.16~0.30  $\mu$  Sv/hです。1年間後、今年10月までの減少は15%ではないでしょうか。

#### ◇日光市民は、いつのまにか日光市の力で目隠しされ、線量を知らされず、声を上げられない環境に

これまでみたことから日光市内の放射能汚染状態を知っていただけたと思います。より詳しく知りたい方は、日光市のHPから誤魔化されないように実情を見ていただければと思います。

それでは、日光市民、子どもたちが放射能汚染地帯で日常生活している状況を紹介しましょう。

その前提には、日光市が昨年4月からの「安全宣言」「風評被害」という宣伝を声高々に叫び、さらにマスコミを通じて広げられました。日光市は、1億円以上の税金を使ってテレビ、ラジオ、雑誌、さまざまなイベントなどでの宣伝です。他方、これまで日光市の広報には、放射線量の具体的数値など一切掲載しません。放射能の危険性などまったく知らされません。

しかし、市民は、昨年からのテレビなどでの情報から、5月の連休までは、けっこう花粉症の関係もあって、マスクを掛けた人が目立ちました。しかし、暖くなることと、身近な線量が知らされない中で、目に見えない放射能問題は、日光市の「安全」「風評被害」との声にかき消されていくこととなります。と言うよりは、町全体が、経済優先の商売、誘客、イベントと言う中で、放射能の不安などと言うのが忘れがちにというか、声に出せない雰囲気がつくられてきました。同時に、住宅地でも、職場でも、人間関係が希薄になって、ほとんど隣の人との会話が無くなっているという背景があります。そんな環境下ですから、放射能の不安などを口にすれば、何を言われるかわからないと言う空気です。それこそ、心配など言えば、「そんなことを言うから風評被害が広まる」と言われかねない状況です。

小中学校などでは、教育委員会が「小中学生など屋外活動で校庭の利用は、1  $\mu$  Sv/h 以下なので問題ない」との姿勢が続いているところ。この教育委員会の方針は、校長、教員が従う風潮がすすんでいますから問題は表面化しません。少数の、疑問に思う教員にとっては、個人的に子どもたちに注意したり、構内の様々なところの線量を測るなどしているとの話を聞きました。全体的に重い空気が立ち込める中で、子どもたちの父兄が放射能の危険に声を上げることすら難しくしていると言えます。教員に相談したある人の話しでは、その教員は、まったく放射能の危険について何も知らないと言う意識で話しにならなかったと言います。

日光には、東照宮に三猿という彫り物があります。たしか、これは子どもたちを育てる中で、「見せてはならないもの」「聞かせてはならないもの」「言ってはならないもの」の戒めのためのものと聞いていましたが……。いま、日光で起こっている三猿現象は、権力(日光市、政府など)による、巧みな市民の人権の封じ込めで、「目隠しされ」「知らせず」「言わせない」と、民主主義の否定のなにもものでもありません。あの戦争時代の怖い時代を思い起こさせます。

#### ◇チラシ配布で文句言われる不安から、話すと、ほとんどの人が心配していて「ご苦労さん」!

私は、なんども放射能汚染・被ばくの危険について声を上げようとイライラしていて、誰か声を上げてくれたらついていこうと考えていました。なぜなら、今回の問題は、どこの政党も、労働組合も、市会議員も、地域の力のある人も声を上げようとしていません。そして、この放射能汚染・被ばく問題は、以前の戦争、いや、それ以上の問題だと考えます。人類の生命にとって、地球の存続にとっての大問題ではないかと思っています。私が一人声を上げるには、あまりにも問題が大きすぎます。しかし、そんなことも言っていられず先の事を考えず、ある日光市の悪辣な態度から10月下旬に声を上げてしまいました。

私自身も、ほとんどの市民と同じく「放射能汚染・被ばくは問題だ」などと言えば、文句を言ってくる人がいると言う空気を感じていたので、何かあったらと、録音機を持って緊張しての配布の始まりです。1時間に1本程の田舎の駅で早朝通勤・通学時間帯での配布です。なんの違和感なく、多くの方がとってくれました。ビクビクしていた緊張感も取れホッとしました。しかし、後半に、40歳前後の女性が「エックス線も、飛行機でもあびているんですヨ」と食ってかかっ

てきた人だけでした。その女性は、私以上に顔をこわばらせて言ってきました。その後も、再度、この女性が絡んできただけでした。そして、確かに、チラシを断る人はいますが、2 回目のチラシ配布は、さらなる緊張です。最初のチラシは、何のチラシかわからず取った人も多くいますが、今回は、チラシを取ってくれるのだろうか気をもみました。しかし、前回と変わらず取ってくれるので、緊張感とともに、あっけにとられました。そして、その後は、配布の週を重ねるごとに、「おはようございます」というと、「おはようございます」と言う声や、「ご苦労さん」・・・と声を掛ける人、なんだか飲み物を差し入れてくれる人、毎週 39 回も配っていると、顔見知りの人も多くなり、都会と違って 1 本乗り遅れば大変ですから、そんな短い出勤時間に声を掛けて話すともできました。

日光市民は、馬鹿でも、無知でもありません。多くの人たちが子どもたちをはじめ自らの健康への不安を持っていることがわかりました。私は、いつもこのころの中にある「放射能汚染・被ばく」の危険を訴えることは正しいのかという不安が少しずつ自信につながっていくこととなります。

そして、一日一日冷え込む中で、昨年年末から、多くの人々の声を聞こうと、住宅地への配布を始めることとなります。日光の冬は、日光連山からの空っ風で冷えますが、晴れ渡った日中は、外に出ている人もいます。どう声を掛けるか悩みましたが、結局、単純「放射能の事を心配しているんですが、読んでもらえますか」と渡していきました。そして、駅での人々の心配をしている気持ちがわかっていたので、驚きませんでした。少ないですが、「逃げられないものしょうがないでしょう」「どうすればいいの」・・・と消極的な人もいましたが、あえて、チラシを取らなかった人は、何千人かのう現在まで 20 人弱です。

ほとんどの人は、放射能汚染・被ばくを心配しています。しかし、隣の人との話しが無い社会では、これらの心配の声は表面化しないのが現実です。

特に、市広報では、放射能の危険を知らせず、線量を知らせません。(知りたければインターネットでと言う姿勢です)新聞でも、観光優先の姿勢ですから、放射能の危険や汚染実態の情報は消極的です。観光誘客、イベントに重点を置いています。しかし、新聞も、汚染の高いものが出れば、書かざるを得ません。そんな情報が出るごとに、多くの人たちは、やはり汚染されているということを実感していました。

#### ◇日光の子どもたち、日光を訪問する子どもたちを無防備に被ばくの危険にさらす大人たち！

日光市の放射線量の実態は、理解していただけだと思います。

さて、日光市は、県外からの視察者に「地元の子どもたちが屋外などで通常通り活動している姿を観てもらおうことが、安全性の理解に効果的ではないか」との姿勢です。これは、子どもたちを放射能汚染地帯で無防備のままに被ばくの危険の中におくという、観光業者のために誘客、カネ儲けに「いけにえ」として利用すると言うことです。カネ儲けのためには、タブーなどないのでしょう。行政が市民の生活、健康を守ると言う第一義的なことなど眼中になく、がむしゃらなカネもうけを支援する組織になり下がってしまったと言う異常な事態が大手を振っている社会になってしまいました。そして、さらに怖いのは、下野新聞社(2011.0418)は、日光市のこの「安全宣言」のために子どもたちを「いけにえ」とする発言をしたことに批判どころか、ただただ、日光市の「安全宣言」の宣伝記事として掲載していることです。

さて、この日光市の「いけにえ」発言は、具体的に県外からの視察者(多くは教育委員会、教員)に、具体的に子どもたちの様子を見させるという、「見世物」になっています。これに対して、これら教育関係者は、どういう感覚で子どもたちを見ているのでしょうか。例えば、相模原市教育委員会は、修学旅行の日光視察になんと総勢6人で1月25日訪れ、どれだけの具体的な日光の情報を得たのでしょうか。その1つに、「日光市内の学校では、屋外活動の制限はなく通常通りの教育活動を実施」とし、『日光の子どもたちが 03、0.4、0.5  $\mu$  Sv/h のなかでも安心との認識ですか』と尋ねると、「一つの基準」と言います。(チラシ no.17-2012.02.17//日光-放射能から子どもを守る会)相模原市教育委員会は、子どもの健康など真剣に考えているとは思えません。6人での出張旅行ぐらいにしか考えていないのでしょうか。いや、子どもたちが元気に校庭で活動している姿を見て、内心、動物園の動物を見る目で『みんな元気そうに運動やっ

るじゃない心配ないよ』と思ったんでしょう。それとも少しでも心の痛みを感じましたか？

また、私は、ある日、移動教室で日光市内の県営「日光だいや川公園」に都内の小学生が来ていた時です。最後部にいた教員らしき男性に、「この放射線量知っていますか。高いですよ。除染対象にもなっていますし・・・」と声を掛けると、ニヤッと笑いかけてました。何と言いたかったのでしょうか。また、都内の林間学校や移動教室の計画のあるいくつかの教育委員会に尋ねたことがあります。私は、日光の線量や状況、宿泊する地域の線量の高いことを話すと、「宿泊施設は測定して問題ありません」と、まったく取り合わない姿勢でした。

日光の子どもたちは、県外から日光へ修学旅行、林間学校や移動教室に来る子どもたちにとって、将来に渡って大きな思い出に残る時空の体験のために、「放射能汚染は安全」として利用されます。と言うよりは、それを取り巻く大人たちのために利用されます。

他方、県外から日光に来る子どもたちは、日光の市民、子どもたちに、子どもたちも大勢来ているのだから問題ないでしょうと言う空気をつくりだしています。ますます、放射能汚染での被ばくの危険から無防備になることになります。日光市や観光業者(観光業でも全てではありません)のためにこそなれ、市民、子どもたちには、大きな被ばくへの負の力として働いています。

本当に、日光市や日光に子どもたちを送りこんでくる自治体は、日光は安全と考えているのでしょうか。政府は、 $0.23 \mu \text{Sv/h}$  以下でさえ、安全とは言っていません。世界的にも放射能は安全基準値がないと言われてます。

そう、私は、不慣れなインターネット検索で、最近、日光市の HP で以下の記事を見つけました。「農業従事者への注意事項」です。しかし、何人かの農家に聞きましたが、聞いていないと言います。さて、この注意をよく読んでください。農業従事者へのこの注意は、子どもたちが校庭で、砂埃を立てて野球、サッカー、ホッケーなど運動することも、同じ注意が必要と思うのですか。そう思いませんか。日光の子どもたちに、このような注意をしたと言う話を聞いたことがありません。日光市、日光に来る自治体・教育委員会に意見を聞きたいです。

#### 【参 考】 ❖日光市 HP❖

〈農作業時に注意すべきこと〉市内では、これまでの調査によれば多いところで約 1,000 ベクレル程度の放射性物質が農地土壤に含まれている現状あります。そのため、農作業中に土壤やほこり等に含まれる放射性セシウムを、口や鼻から吸い込むことで、内部被ばくすることが懸念されます。このことから、農作業に当たっては作業時の内部被ばく量を低減するために、次のことにご注意ください。

##### (1)作業前・作業中の対策

ほ場が乾いている時には、耕うん等の土ぼこりの上がる作業は避ける。マスクを着用する。皮膚の露出を減らす。ゴム手袋・ゴム長靴等を着用する。ゴーグルで目を保護する。

##### (2)作業後の対策

作業時に体の露出していた部分を良く洗浄する。目の洗浄、うがい、鼻洗いを徹底する。

作業服を着替えて、ちり、ほこり等を屋内に持ち込まない。

#### ◇子どもを自殺に追いやった学校・教育委員会の体質が、ここにも現れていませんか

さて、最近、子どもが自殺をしても握りつぶし、個人の問題とするという無責任な学校・教育委員会の体質が明るみに次々と発覚しているところです。「自殺」と一言で言いますが、本人にとっては、たいへんな思い悩みの中で、自ら命を絶つと言う、生きる絶望感へ追いやったのが学校であり、教育委員会でしょう。「いじめ」か、「あそび」か判断できないと言う、いや「いじめ」と判断するのが面倒で、関わらないで済ませようと言う姿勢は、今回の放射能汚染の問題と変わりありません。いや、今回の問題は、すぐ健康に被害が出ないであろうことから、逃げ道が大きいことを知っているの対応なのでしょう。

しかし、もし、日光の子どもたち、市民に何年後か放射能被ばくによる健康被害が発覚した場合は、県外の教育委員会なども責任があることを忘れません。そうならないことを望みますが……。

これらの学校教育における大人たちの傾向は、一学校、一教育委員会を超えて、日本社会そのものの腐敗が根底にあるということだと思います。しかし、子どものより身近にいて、子どもを守る立場、責任のある教養レベルも高いであろう大人たちがこれでは、ますます、子どもたちから大人社会への信頼を失うだけでしょ。

ぜひ、社会の宝としての子どもたちの健康な成長に手を貸し、支え、見守るべく教育現場の大人たちは、自らの足で立つ勇氣に期待したいです。

その動きが見えなければ、日本社会は、崩壊に向かっていくしかないでしょう。

#### □追加情報-1◆日光の農産物の放射性物質セシウムの検査について

相模原市木養育委員会は、6人もの大勢でどれだけの情報を得てきたのでしょうか。相当多くの子どもたちが行く場所の測定をしてきたと思いたいです。それにしても、子どもを心配する父兄の測定値とは差があるようですね。真剣に子どもを心配すれば、一瞬の測定地点の線量ではなく、面や時間の経過など、多くの測定をしてきたのでしょうか。いや、そう思いたいです。それとも、税金での旅行気分だったのでしょうか。

さて、委員会は日光の食材について、「食材は放射能検査を通過した市場のもの」との報告をしています。市場のものは全て放射能検査をしていません。日光の生産物は、栃木県が農協(JA)に検査の農産物を提供するよう申し入れます。具体的には、農産物ごとの、例えば、キュウリだとすれば、日光市内からの初出荷の際に、市内から1点のキュウリを県が調査して、100Bq/kg 以下なら安全宣言で、日光市内の農産物は市場に出回ります。これで安全ですか。私は、安全だと思いません。

さて、現在、日光市の食材を測定する機器は、ホテルなどで1台使われています。しかし、これ一台で、どれだけの検査ができると思いますか。調べてください。

#### □追加情報-2◆日光市は「汚染状況重点調査地域」//除染地域32ヶ所、保育園・幼稚園・小中学校施設46施設

この情報はご存じだと思います。政府、日光市認定です。そこに子どもたちを何の注意どころか、放射能の危険を知らせずに無防備で学校生活をさせています。いや、相模原市教育委員会の視察団は、子どもたちの校庭での様子を見世物小屋でも覗くように見学したのでしょうか。なぜ、相模原の子どもたちが訪れない小学校まで覗きに行ったのですか。物見遊山ですか。その姿勢が理解できません。

日光市は、この調査地域になっていますが、線量を低く誤魔化してきても0.23  $\mu$  Sv/h 以上の除染対象は、32地域、保育園など14施設、幼稚園など10施設、小中学校22施設にのびます。(市はこの数字を覆い隠すために全ての子どもの施設の除染をするとの姿勢)

#### □追加情報-3◆放射能は見えなくとも、次々発覚する汚染の現状//ごく一部分

\*米 2011年度米は、栃木県内で唯一、日光市から放射能セシウムが検出されました。旧日光町、旧今市町(昨年は、戦後の旧行政区単位で1点の検査が行われました)

2012年度米は、日光市内は特に重点地区に指定されて、ほぼ全農家(1ha 単位/100m ごと)の検査になりました。それだけ汚染されている場所ということですが、しかし、放射能物質セシウムは検出されない可能性がそうです。汚染されていないということではありません。すでに、日光市は、5000万円以上も全農家にセシウムを吸収しないためにカリウムをまくと言う対策をしました。だからといって、セシウムはどこかえきえてなくなっほわけではありません。

\*魚//以下の測定値は、頭や内臓など放射性物質が溜まりそうなところは除去しての測定値

中禅寺湖 07.11/ニジマス 98Bq/kg、ブラウントラウト 160Bq/kg、ヒメマス 170Bq/kg  
 06.26/ヒメマス 150Bq/kg、ブラウントラウト 220Bq/kg  
 05.25/ヒメマス 180 ベクレル/kg、ブラウントラウト 250Bq/kg、ニジマス 59Bq/kg  
 04.20/ヒメマス 169.8Bq/kg、ブラウントラウト 156.4Bq/kg、ニジマス 147.2Bq/kg  
 ヒメマス 54Bq/kg、ワカサギ 175Bq/kg  
 03.09/ニジマス 168.9 ベクレル/kg、ブラウントラウト 280.0 Bq/kg、ヒメマス 195.7

足尾町渡良瀬川上流 07.13-18/イワナ 130Bq/kg、250Bq/kg、47Bq/kg、120Bq/kg  
 イワナ(出荷停止)2 検体 4.1-73Bq/kg、4 検体 110-150-160-160Bq/kg  
 06.14/イワナ120~170Bq/kg、ヤマメ 130Bq/kg  
 02. /ヤマメ 162.6Bq/kg

鬼怒川 ヤマメ 2 検体 9.3-28Bq/kg  
 大谷川 ヤマメ 52Bq/kg  
 小百川 ヤマメ 215.7Bq/kg、イワナ 269.0Bq/kg

\*きのこ

08.06/チチタケ 31,000Bq/kg  
 原木栽培生シイタケ(露地) 298Bq/kg 出荷停止

\*山菜 出荷停止

\*タケノコ 出荷停止

\*永年生牧草//9点検査中7点、基準値 100 ベクレル超え。高汚染 796.1Bq、678.0Bq、551.1Bq・

□追加情報-4◆日光市の野生獣肉の放射性物質の検出結果(捕獲日//捕獲場所/セシウム Bq/kg)

2011/猟友会日光支部				2011~12/県保健福祉部生活衛生課			
08.25	鹿	今市	2037	12.07	猪	小林	506
09.02	鹿	藤原	940	12.10	猪	室瀬	299
09.05	鹿	小来川	590	12.10	猪	猪倉	527
09.11	鹿	足尾	180	12.11	猪	今市	424
09.11	鹿	湯西川	99	12.15	鹿	栗山	274
09.17	鹿	川俣	62	01.15	猪	小林	132.6
09.24	鹿	日光	420	01.29	猪	足尾	183.4
11.29	猪	猪倉	527	01.29	鹿	平ヶ崎	181.6
12.01	猪	小林	506	2012/県環境森林部自然環境課			
12.03	猪	木和田島	424	01.19	猪	小百	2490
12.04	熊	小百	934	01.19	鹿	藤原	44.9
12.24	鹿	荊沢	88	01.25	鹿	中宮祠	61.2
12025	山鳥	小百	97	01.28	鹿	小来川	156
資料提供/猟友会日光支部支部長/塚原さん				01.29	鹿	足尾	127

□追加情報-5◆日光の観光業者は、東電から56億6000万円也！□

日光市、観光業の風評被害に対する損害賠償請求は、事故発生後分を9月から開始。3月5日時点の支払い状況は、470件、56億6000万円也！さらに、日光市は今年度、風評被害払拭に宣伝費1億1000万円。2012年度は2億2000万円。その他に1億円の援助金もあります。栃木県も5000円の宿泊券を2000円援助です。

□追加情報-6◆日光市立小学校の放射線量

単位/毎時マイクロシーベルト/ $\mu$ Sv/h

(測定地校庭の中心/地表50cm)

※1 栃木県、県教委測定/2011.05.13-19

※2 日光市測定(2012.05.14~18/月-金)最低~最高値

※3 1年後(2012.05)放射線量セシウム減少の推定値(※1 $\times$ 0.85)約15%減少/四捨五入

	※1	※2	※3		※1	※2	※3
今市小	0.37	0.25~0.30	0.31	日光小	0.36	0.12~0.37	0.31
今市2小	0.41	0.16~0.33	0.35	清滝小	0.33	0.14~0.24	0.28
今市3小	0.38	0.14~0.29	0.32	野口小	0.56	0.29~0.38	0.48
南原小	0.30	0.14~0.18	0.26	中宮祠小	0.25	0.21~0.26	0.21
落合東小	0.17	0.08~0.20	0.14	所野小	0.49	0.13~0.42	0.42
落合西小	0.31	0.06~0.18	0.26	小来川小	0.32	0.19~0.23	0.27
大桑小	0.65	0.25~0.37	0.55	安良沢小	0.38	0.16~0.30	0.32
轟小	0.54	0.24~0.31	0.46	鬼怒川小	0.55	0.28~0.47	0.47
小百小	0.71	0.24~0.38	0.60	下原小	0.54	0.25~0.32	0.46
大沢小	0.22	0.12~0.18	0.19	三依小	0.32	0.22~0.30	0.27
大室小	0.30	0.18~0.31	0.26	栗山小	0.31	0.11~0.16	0.26
猪倉小	0.19	0.11~0.19	0.16	湯西川小	0.16	0.17~0.30	0.14
小林小	0.37	0.29~0.36	0.31	足尾小	0.34	0.21~0.33	0.29

□追加情報-6◆土壌汚染線量

\*土壌汚染 2011.10.09<セシウム/Bq/kg>//大谷川 8700 Bq/kg. 鬼怒川 3400 Bq/kg. 板穴川 3200 Bq/kg.

10.18//湯ノ湖 260 Bq/kg. 中禅寺湖 850 Bq/kg. 五十里ダム 1440 Bq/kg. 10.19 川治ダム 3300 Bq/kg

■参考//改めて放射能の危険を身の回りから考える

◆小中学校でのエックス線は安全ですか。

古い人間にとっては、子どものころに毎年エックス線撮影がされていたような気がします。しかし、最近は、毎年やらなくなってきたと言います。なぜですか。

◆病院に行くと、放射線撮影をする部屋の近くには、放射能の危険を知らせるマークがあります。これ危険の印ではないのですか。なぜ、そのようなマークで知らせているのですか。

◆一般の病院でも、歯医者でもエックス線撮影しますが、なぜ、撮影者は、その場から離れるのでしょうか。すぐそばにスイッチをつけておく方が、無駄な時間省けそうですが。以前は、鉛の前掛けのようなもの付けていたようですが…

◆大学病院放射線部での放射能の危険から守るための線量計とは？

今年4月に、やむなく子どもを守るため母子で疎開したお母さん、昨年春まで看護師で大学病院放射線部に勤めていたことから、その恐ろしさを知っています。

毎日、毎日、業務で、ものすごい線量の放射線を浴びていました。やっぱり勤務中は、ルクセルバッチといって個人の線量を管理するバッチを常時付けていました。女性は、生殖器(卵巣)が腹部にあるので、腹部にある白衣のポケットに一つ、血管造影中に看護する時には、手の指に指輪になっているルクセルバッチを一つ、もう一つは、水晶体(目)や首の甲状腺付近と言うことで、白衣の襟の一つと、一人に3個、つけるようになっています。

確かに医療従事者の被曝は凄いです。わたしも当時の1カ月の被曝量の書いた紙(毎月ルクセルバッチを回収し、個人線量を出します)を久しぶりに引っ張り出して見てみたら、2~3 ミリ Sv くらいありました。

◆確か、現在、日本ではジャガイモに放射線を投射して芽を出さないようにすることを認めていると聞いたように思います。もし、そうだとすれば、動物でいえば、子どもができないということ。すると、人間でも…。



❖ 広島、長崎の被爆者は、65 年以上裁判で、被ばくを認めるようたかってきました。裁判で測ったものの、政府は、当初決めた爆心地以外と言うことで認めようとしません。これから、私たちに降りかかる構図のようです。また、原爆投下後に支援に入った人たちもその後被ばくが発覚したということも事実だそうです。チェルノブイリだけでなく、身近な広島、長崎の被爆者を忘れてはならないと思います。